

EWS (AS3000シリーズ) 用AIツール

5G-5 - KCLとUNIFYとの結合 -

山本孝志, 星野洋, 才所敏明
(株式会社 東芝)

澤田寿実, 生沼達哉, 飯山孝司
(株式会社 SRA)

1. はじめに

当社では、サンマイクロシステムズ社のSUN3に日本語機能を付加したAS3000をベースにして、LISPプログラミング環境の整備を行っている。

汎用のワークステーションの処理速度の向上は日覚ましく、LISPの処理速度の面では実用にちがいでいるものの、既存のワークステーションが提供するプログラムとのインターフェースは今一歩であり、システム記述言語としての機能は不十分である。

そこで、我々はワークステーション上のLISP (KCL) にシステム開発言語としての機能として次の機能を拡張してきた。

- (1) グラフィックス機能 (SunCore, GKSとのインターフェース)
- (2) ウィンドウ機能 (X, SunView, NEWSとのインターフェース)

今回は、多量のデータを扱うための、データベースとのインターフェース機能をLISPに付加したので報告する。

2. システムの目的

LISPを用いて多量のデータを扱うには、LISPのヒープにデータを格納する方法と、外部ファイルにデータを格納してアクセスする方法の二種類がある。

前者では、LISPのガベージコレクションによって、データ量の増大にともなって実行速度が極端に減少する恐れがあり、後者では、アクセス関数やデータの保存形態の設計が難しいという問題点があり、LISPを用いて大規模なデータを簡単には取り扱えなかった。

本システムは、EWS上のリレーショナル・データベース管理システムとのインターフェースを提供することにより、データベース管理システムが提供する効率よい検索システム、および、効率良い記憶管理機構をLISPユーザが取り扱い可能にすることによって、以上の問題点を解決することを狙っている。

3. システムの概要

3.1 リレーショナル・データベース管理システム UNIFY

UNIFYは総合的なデータベース管理システムであり、データベースの生成、利用、保守、維持管理の為のモジュール群やデータベース開発支援環境を提供している。

UNIFYの主なモジュールは次の通りである。

(1) SQL

キーワードによる検索が可能なリレーショナル・データベース照会言語

(2) QBF

入力画面上で対話型でデータ検索を行う機能

(3) ENTER

データ入力画面自動生成および編集機能

(4) ホスト・ランゲージ・インターフェース

C言語アプリケーションプログラムから、UNIFYのデータベースを効率良くアクセスするための約120個の関数群

3. 2 KCL/UNIFYの機能

(1) HL I インタフェース機能

UNIFYが提供するC言語を対象としたHL I (Host Language Interface)と同程度の機能を提供する。すなわち、LISPの関数呼び出しの形式で、データベースにアクセスが可能である。

(2) SQLによる呼び出し機能

KCLからSQLステートメントを文字列の形で記述して、データベースのアクセス、更新が可能である。

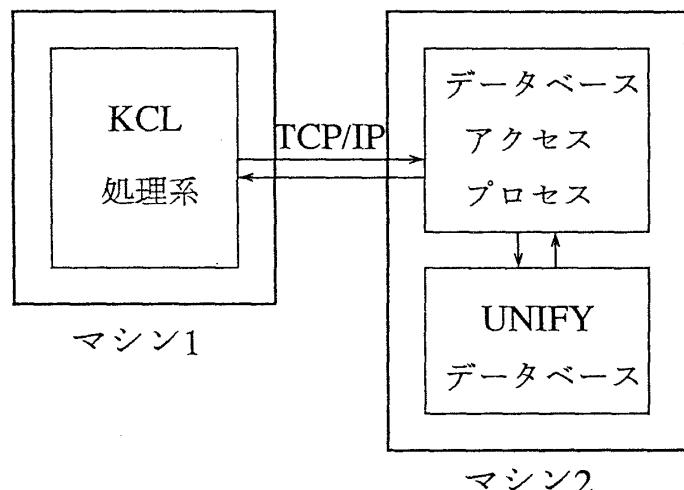
(3) 分散処理

ネットワーク上に結合されている複数のマシン間で、処理を分散し、片方でLISP処理、もう片方でデータベース処理を行わせることが可能である。これによって、負荷を分散させ処理効率を高めている。

4. 実現方式

KCLプロセスとUNIFYアクセス・プロセスとはプロセス分割され、TCP/IPによって結合される。(図1)

KCLで記述したSQLや、HL Iは通信経路を経由して、UNIFYアクセス・プロセスへ転送される。



5. おわりに

データベース・システムの開発・運用は、①データベースの構造定義、②データ生成・入力、③検索書き込み等が主なステップとなる。これに対応した、データベースのアクセスは、データベース管理システムが提供するユーティリティやLISPを用いて、以下のように行える。

(1) DBの構造定義は、UNIFYの画面対話型のユーティリティによって処理可能である。

(2) 知識システム等の応用システムとデータベースとのデータのやり取りは、LISP言語から柔軟に入力、検索、書き込みが可能である。

本システムによって、LISP応用システムとデータベースとの基本的インタフェースが提供されるようになった。

<参考文献>

[1] 山本、他：AS3000用Kyoto Common Lisp、情報処理学会研究会、86-AI-49, 1986.

[2] 山本、他：EWS（AS3000シリーズ）用AIツール、第34回情報処理学会全国大会、3L-1~7, 1987.

[3] UNIFY Corp.：“Unify Developers Reference Manual”

図1 システム構成